

### III. 事業のまとめと今後の展望

#### 1. 事業のまとめ

##### (1) 事業の実施概要

本事業では、大学間連携を基本としながら、以下のとおり各取組の連携による開発・実施及び展開を行った。

基幹となる「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」に、「国際医療薬学教育研究推進プログラム」、「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」、「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」及び「地域医療教育研究推進プログラム」を加えた主な5つの教育研究プログラムについて、参画大学の連携による開発・実施を行った。

大阪大学では、主幹校として参画大学におけるこれらの取組の運営を総括するとともに、5つの教育研究プログラムの一環として、参画大学間の連携・協働のもと、「主幹校企画シンポジウム」、「合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ」及び「学生自主研修プログラム」を企画・実施した。また、大阪大学独自の教育研究資源を活用した教育研究プログラムの開発・実施を行った。これらについてはⅡ-4として報告した。さらに、Ⅱ-5として、「大阪大学OUマスタープラン2027に特に貢献した教育研究活動に関する報告」をまとめた。

これに加えて、各参画大学では、これら5プログラムを基盤として発展的に企画・実施した教育研究活動として、「地域における他大学、病院・薬局、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携による取組」、「卒業生・修了生との連携による教育研究活動」、「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂への対応及び教育の質向上を目的とした独自の教育研究活動」、さらには「大学院博士課程進学促進に向けた教育研究活動」等を展開した。これらについてはⅡ-3「主な5プログラム以外の教育研究活動に関する成果報告」としてまとめた。

さらに、Ⅱ-6「国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラムの在り方について」において、「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けたFD・SD活動」及び「学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けて推進すべき教育研究活動」として、参画大学の取組・活動について整理・報告した。

本事業における教育研究プログラムの開発・実施については、大学間連携を基本としながらも、各大学がそれぞれの教育研究上の特色、地域性及び人的・物的資源を活用し、独自性と自由度を持って推進する形式を継続した。これにより、各大学の教育理念、教育研究上の目的及び三つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）に基づいた、多様で特色ある教育研究プログラムの展開を図ることができた。

##### (2) 事業の成果

実施した取組の成果については、「Ⅱ. 事業成果報告」で報告したとおりである。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症による制限から教育研究活動が本格的に回復し、オンラインで蓄積した教育研究手法と対面活動を融合した新たな教育研究体制への移行が進んだ年度

であった。本事業においても、大学間連携を基盤としながら教育研究活動の再活性化と高度化が進められ、当初計画した取組を概ね実施し、多大な成果をあげることができた。

主な5つの教育研究プログラムにおける具体的な成果は以下のとおりである。

対象教育研究プログラム	2023年度の主な成果・取組実績
<b>1) 高度医療人キャリア形成 教育研究推進プログラム (基幹的取組)</b>	大学院進学促進及び薬剤師博士人材育成を重要課題として設定。「国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ」等を通じて、薬剤師の地域偏在や研究人材育成に関する課題共有、キャリア形成支援を展開した。学生・大学院生の研究活動・キャリア支援を通じ、研究能力と実践能力を兼ね備えた高度先導的薬剤師養成に向けた教育研究活動を大きく推進した。
<b>2) 国際医療薬学教育研究推進 プログラム ／グローバル健康環境 教育研究推進プログラム</b>	海外交流を本格的に再開し、「海外学生自主研修プログラム」や「国際共同教育活動」を実施。従来の海外派遣・受入型教育に加え、コロナ禍で蓄積したオンライン交流の成果も有機的に活用することで、学部生・大学院生の国際性涵養と国際的視野の形成に資する教育研究を展開した。
<b>3) 地域薬学人材養成教育拠点 形成プログラム ／地域医療教育研究推進 プログラム</b>	地域医療の課題対応として、地域偏在、在宅医療、地域包括ケア及び医療DXを意識した教育研究活動を各大学で展開。特に地域医療における実践教育や、遠隔技術・情報技術を活用したハイブリッド型の教育手法導入を通じ、地域社会に貢献できる高度薬学人材養成に向けた教育研究基盤の充実が図られた。
<b>4) 全体の検証と今後の課題</b>	開発した各プログラムの継続的な共同開発・実施を図る。優れた取組については参画大学内にとどめず、広く薬学教育全体へ展開・普及させることが期待される。今後は連携大学間で教育効果を客観的に検証・改善しつつ、モデルプログラムとして積極的な情報発信を行う。

大阪大学が実施した教育研究活動については、Ⅱ-4で報告したとおり、主幹校として大学間連携による教育研究活動の企画・運営を統括し、またⅡ-5で報告したとおり、「OU マスタープラン 2027」の実現に確実に資する教育研究活動として着実に展開した。

また、「国公立大学における学部教育、大学院教育の充実と高度化に向けた教育研究プログラム

の在り方について」では、FD・SD 活動及び今後推進すべき教育研究活動について体系的に整理した。教育の質保証、教学マネジメント、研究能力の向上、教育 DX 等への対応を含め、参画大学において教育研究活動の継続的な改善・高度化が図られている。

## 2. 事業の今後の展望

今後の事業展開として、これまで参画大学の密接な連携によって開発・実施してきた教育研究プログラムのさらなる充実・発展及び普及を図る。これにより、現在及び将来の急激な医療環境の変化に柔軟に対応し、先進医療、創薬研究、高度保健衛生分野を先導的に主導できる「高度先導的薬剤師」の養成と、そのグローバルな活躍の支援・推進を目指す。

### ■ 今後の重点推進事項

#### ・「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」

国公立大学薬学 6 年制教育研究検討委員会において最重要課題とされている「大学院博士課程進学促進」及び「薬剤師博士人材育成」を最重点事項とし、卓越した研究力と実践力を兼ね備えた高度先導的薬剤師養成を推進する。

#### ・「国際医療薬学教育研究推進プログラム」及び「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」

対面での密な交流とオンライン教育を効果的に組み合わせた新たな国際教育モデルを発展させ、国際舞台で活躍できる高度先導的薬剤師養成を推進する。

#### ・地域医療への対応と高度化

薬剤師の地域偏在問題や地域医療の高度化に対応するため、地域医療 DX 教育、遠隔教育、多職種連携(IPE)教育等を強力に推進し、地域社会に真に貢献できる薬剤師養成モデルの高度化を図る。

大阪大学は、「生きがいを育む社会」を創造する大学として、2022 年(令和 4 年)から始まる第 4 期中期目標期間に加え、さらにその先も見据えた中長期的な経営ビジョンである「OU(Osaka University) マスタープラン 2027」を掲げている。この中で「教育基盤: 知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境の整備」、「研究基盤: 自由な発想が芽吹く研究環境の構築」、「コロナ新時代に対応する情報基盤整備」、さらには「グローバル戦略: 世界規模の課題に立ち向かうグローバル人材の育成と学術研究の推進」を包括的に進めている。上記のような基幹経費化された第 4 期中期目標期間における本事業は、まさにこういった大阪大学の目標到達に向けた、教育研究における具体的な取組を具現化するものである。

すなわち、国公立大学が担うべき薬学領域、および医療における社会的な責任を深く自覚し、社会とともに歩み、活力ある社会を創出するためのイノベーションを担う人材である“高度先導的薬剤師”の養成や新たな価値の創成を通して、「社会を創造」する大阪大学がグローバル社会の求める負託に応えるための極めて重要な事業と言える。

